

## 小学校国際理解学習の改造

—小六総合学習「みんな地球人」を手がかりに—

Reorganization of the International Education in Elementary School: A Case Study of Unit "We are Global Human beings" in Integrated Learning for the 6th Graders

峯 岸 由 治

(埼玉県草加市立小山小学校)

### 1. はじめに

現行学習指導要領は、小学校社会科における国際的視野の形成を重視し、「国際社会に生きる」という文言を新たに教科目標に明記した<sup>1)</sup>。そして、この目標に関連して、各学年で世界を視野にいった内容が取り上げられている。6年生では、「わが国と関係の深い国の様子や国際社会の中で占めているわが国の役割」が取り上げられ、5年生までの授業との関連がはかられている<sup>2)</sup>。こうした傾向は、「国際化」の進む現代社会の変化に対応した内容として評価できる。しかし、一方でその内容は、「自国の文化・伝統・歴史や他国とは違う自国の優秀性が強調されているので、自国中心の国際的視野の形成に陥ることになる問題がある」と指摘されている<sup>3)</sup>。そのため、現行学習指導要領に規定された実践では、「児童・生徒に、より広いグローバルな視野で主体的に現実社会の諸課題に関わろうとする力がついていかなかった」とも指摘されている<sup>4)</sup>。そこで、本小論では、小学校における国際理解学習の改造の方途を明らかにしたい。

社会科教育における教科教育研究では、授業実践の科学化を目指して、日々行われている教育実践の事実を対象に、優れた授業実践に内在する理論を明らかにしようとする研究と、明らかにされた理論を授業実践を通して検証しようとする研究とによって、授業の改革と理論の究明が進められてきた<sup>5)</sup>。本小論でも次の研究方法を取る。

第一に、国際理解学習の改造を意図したこれまでの先行研究、及び実践を検討し、改造授業を仮説的に構成する。

第二に、仮説的に構成した改造授業を実施する。

第三に、児童の変容や授業に対する評価を手がかりに、実施した改造授業を検討し、小学校における国際理解学習の改造の方途を明らかにする。

### 2. 改造授業の構想

#### (1) 先行研究の検討

ここでは、国際理解学習の改造を意図した先行実践や先行研究の中から、紙幅の関係で次の二つを取り上げる<sup>6)</sup>。

まず、大津和子氏の『国際理解教育—地球市民を育てる授業と構想—』に報告されている授業実践を取り上げる<sup>7)</sup>。報告されている六つの授業は、高等学校の「現代社会」で実施されたものである。したがって、小学校における国際理解学習を構想する際には、児童生徒の発達段階の違いを考慮に入れる必要があるだろう。しかし、「生徒自身が活発な学習活動することにより、知識理解だけでなく、技能の習得や態度の育成をも可能にするような授業はつukれないものだろうか」という問題意識のもとで行われたこれらの実践から、現行の国際理解学習を改善する手がかりが得られるのではないかと考えたのである。

これらの実践は、「生活と文化」「世界の諸問題」「未来の世界」といった内容を、「統計分析」「インタビュー」「仮説検証」「ロールプレイ」「ゲーム」「壁新聞作成」「シミュレーション」「ディベート」「ディスカッション」「意思決定」といった活動を通して学習されるように構成されている。授業がこのような構成されているのは、「学習者自身の主体的な活動を通じてこそ、技能の習得・態

度形成の実現が可能」であるという考え方があるからである。

例えば、生徒に「ベスト1に選ばれた」「マイノリティ」という授業は、次のように実践されている。第1時では、「導入」として、「マイノリティ・マジョリティの概念を把握させるため」に、シミュレーションによる模擬体験が行われている。第2・3時では、「問題の把握」として、マイノリティを理解するために、アメリカのマイノリティを取り上げた映画の鑑賞が行われている。第4～7時では、「問題の追求」として、世界のマイノリティについてのレポートの作成が、グループで行われている。第8～10時では、同じく「問題の追求」として、アパルトヘイトを取り上げた映画の鑑賞が行われている。第11～13時では、「問題の表現」及び「解決への模索」として、ロールプレイの台本の作成と実演、参観後のディスカッションが行われている。

すなわち、本実践は、「マイノリティの人権」という地球規模での問題を取り上げ、国際的視野の形成をはかろうとしているのである。そして、シミュレーションによるマイノリティの体験、映画の鑑賞、レポートの作成、ロールプレイ、ディスカッションといった活動を通して学習に対する主体的な関与を促し、技能の習得、及び見方や考え方、態度の変容をはかろうとしているのである。

しかし、大津氏の実践は、実践上の関心から出発したこともあり、設定された個々の「多様な学習活動」についてはその意図が説明されているが、目標や学習指導過程などに関連づけて体系的に説明されていない。したがって、小学校における国際理解学習を改造するには、児童の実態や取り上げる内容に関連させて、実践されている「多様な学習活動」を手がかりに、「知識理解だけでなく、技能の習得や態度の育成をも可能にするような授業」を構成することが課題となる。

また、大津氏の実践は、前述したようにいずれも「現代社会」の授業として実施されたものであり、「授業以外の場でもっばら行われている」と大津氏自身が指摘する「現代社会」という科目のない小学校や中学校の国際理解学習の現状の解決に言及するものにはなっていない<sup>8)</sup>。したがって、

小学校における国際理解学習を改造するには、「生活と文化」「世界の諸問題」「未来の世界」といった内容によって構成された国際理解学習を、ひとまとまりの授業として実施するための教育課程の検討が課題となる。

大津氏の授業実践で取り上げられている学習内容と同様の内容を、国際理解教育の学習内容として主張されているのが、小原友行氏の「社会科としての国際理解学習を」である<sup>9)</sup>。

この論文は、「国際理解教育と指導要領改定への注文」というテーマのもとに、「1ページ注文」として書かれたものである。したがって、紙幅の制約があり、論証に欠けるという限界がある。しかし、「事実としての国際理解に基づいて、国際社会の中でいかに生きるかを児童・生徒に考えさせる」国際理解学習を主張するこの論文から、現行の国際理解学習が陥りがちな自国中心的な国際的視野の形成から脱却する手がかりが得られるのではないかと考えたのである。小原氏は、その内容として、次の三つを指摘している。

第一に、「文化理解に関する内容」をあげている。すなわち、「わが国と他国・他民族の人々の暮らしや生活文化のちがいを比較してその個性を抽出し、なぜそのようなちがいが生まれるのかを、暮らしや文化の背後にある地理的・歴史的・社会的条件や価値観・生き方から理解する異文化理解の内容」である。

第二に、「国際化社会の理解に関する内容」をあげている。「もの・人・情報の国際化、現代世界の相互依存関係と競合関係、国際協調・国際協力の取り組み、国際化の進展にともなう諸問題の出現」などが具体例として指摘されている。

第三に、「人類が地球的レベルでの解決を迫られている内容」をあげている。「環境問題、南北問題、人口問題、食糧問題、資源・エネルギー問題など」が具体例として指摘されている。

しかし、小原氏の主張も、テーマにもあるように現行の社会科教育の枠内で主張されたものではない。したがって、小学校における国際理解学習を改造するには、小原氏の主張する内容構成を現行の教育課程上で可能とする枠組みを検討する必要がある。

以上の先行実践、及び先行研究の検討から、小学校における現行の国際理解学習を改造するための基本的視点を、次のように指摘できる。

第一に、国際理解学習を、「特定の教科の枠を越えた、合科学習ないしは総合学習として」構成することである<sup>10)</sup>。現行の国際理解学習を改造するには、他国や他民族の人々の生活や文化、国際化の進展にともなう様々な問題の発生と取り組み、地球規模の問題の存在と解決のための努力といった内容を取り上げることが求められている。したがって、教科の枠を越えた総合学習として教育課程上に位置づけ、総合的な内容構成をはかる必要がある。

第二に、前述した内容に関連して、児童が共感的な理解を深められる授業構成の手法を取り入れることである。検討した大津氏の実践「マイノリティ」でも、問題に対する共感的な理解が、実体験や映画の観賞を通して深められている。したがって、学習者が「アフリカの貧困問題や地球規模の環境問題、国内・国際的な人権問題などを、単なる『知識』として他人事のようにとらえている」現状を改善するには、人物への焦点化などによって、児童が共感的に理解を深められるように、授業を構成する必要がある<sup>11)</sup>。

第三に、児童の主体的な関与のもとで、知識の獲得と活用をはかることである。現行の国際理解学習を改造するには、「学習者自身の主体的な活動」が求められている。したがって、ゲームやロールプレイ、ディベートといった「学習対象に主体的に関与していこうとする『参加型体験学習』」など、児童の主体的な知識の獲得と活用を保障する学習活動を設定する必要がある<sup>12)</sup>。

## (2) 改造授業の構想

前述した基本的視点にたち、授業を総合学習として、以下のように構想した<sup>13)</sup>。

学習内容は世界の国々で生活する人々の様子と、平和・人権・環境といった地球規模の問題とを取り上げ、総合的な内容構成をはかった。この学習で、児童に理解させたい具体的内容、及びその構成は次の通りである。

○それぞれの国の自然や国土、及び生活や文化の

様子

○生きるための人々の努力

○地球規模の問題の存在と解決のための努力

○国際理解や国際協力を進める国、及び国際社会の仕組みと努力

○国際理解や国際協力を進める行動

そして、獲得した知識が多様な文化や価値の存在を認める広い視野と、地球的規模の問題を解決しようとする意欲や態度に結びつくことを意図して人物への焦点化をはかり、学習への主体的関与を促す活動を設定した。

このような考え方にたって、3つの単元からなる改造授業を構想した。具体的には、次の通りである。

第1単元は、児童の興味関心を触発し、国際理解学習への導入をはかる単元として位置づけた。そのため、クラスごとに一つの国を取り上げ、その国の自然や国土、人々の生活や文化など、取り上げた国を「まるごと」学習させる。したがって、教科や領域を横断し、多面的に学ぶことになる。

取り上げる国は、タイ、フィリピンなどのアジアや、アフリカ、中南米の国々を取り上げる。これらの国を取り上げる理由は、次の通りである。第一に、これらの国々を児童がよく知らないからである<sup>14)</sup>。その上、テレビなどの情報によって、発展途上国に対する否定的な印象が見られるからである。したがって、この単元での学習は、表面的で断片的なものになる可能性もある。しかし、児童にとって、それぞれの国に対する認識を深めていく上で、また国際的視野を形成していく上で、こうした国際社会に対する興味や関心が、本単元以降の学習のよりどころになると考えた。第二に、タイやフィリピンを取り上げる理由は、本学年にタイやフィリピン出身の児童がおり、同じクラスの児童にとって身近な国であること、当該児童を中心に学習できること、などからである。また、取り上げた国及びそこで生活する人々に対する共感的な理解をより強めるため、児童の保護者や地域に住んでいる方なども招き、授業を進めたいと考えた。

そして、この単元では、インタビュー、それぞれの国の食事や遊びなどの実体験、映画や音楽な

どの鑑賞、取り上げた国を紹介するパンフレット作りといった学習活動を設定し、児童の主体的な関わりのもとで、知識の獲得と活用をはかろうとした。

第2単元は、児童の国際的視野、及び世界に関する問題関心を広げる単元として位置づけた。そのため、個々の児童が興味を持ったことを選択し、調べ、まとめるといった児童を主体とした学習活動を設定した。

課題としては、前単元の学習を通して生まれた疑問、世界の他の国々に対する興味、自分たちとは異なった生活や文化などに対する関心などが考えられる。したがって、多様な課題内容を許容する。

単元の学習の終わりには学習発表会を設定し、調べたことを交流させる。

第3単元は、児童の国際理解、及び世界に関する問題関心を深める単元として位置づけた。そのため、人権、貧困、貿易といった地球規模での問題を体験的に学ぶゲームやシミュレーション、国際協力や友好を深めるために活動している人に話を聞く、これまでの学習のまとめとして構成的活動を行うといった学習活動を設定した。これらの主体的な学習活動を通して知識の獲得と活用をはかること、実際に活動されている方を通して共感的な理解を深めることなどを意図した。

なお、本改造授業の目標、及び指導計画は以下の通りである<sup>15)</sup>。

#### <本学習の目標>

##### [総合目標]

○世界に存在する様々な文化や価値を認め、平和や人権、環境といった地球規模の問題に関心を持つ。

#### <本学習の指導計画>

小単元「まるごと〇〇」	…12時間
小単元「こだわりワールド」	…8時間
小単元「みんな地球人」	…31時間

### 3. 改造授業の実際

小単元「まるごと〇〇」では、クラスごとに一つの国を取り上げ、その国の自然や国土、人々の生活や文化について学習した。本学級では、タイ

を取り上げた。

他の3クラスは、フィリピン、インド、ブラジルといった国々を取り上げた。フィリピンを取り上げたクラスにはフィリピン出身の児童がいたので、当該の児童、及び保護者の方に助けていただいて授業を進めた。また、インドやブラジルを取り上げたクラスでは、近くにあるインド料理店の方や地域に住んでいる方をゲストスピーカーとして招き、授業を進めた。

授業では、まず最初にタイ出身の児童の保護者の方を招いた。保護者の方はタイの民族服を着用し、児童の質問に答える形で、タイの自然、人々の生活や文化などについて話された。タイの子供の遊びは、実際に体験した。音楽や踊りは、視聴した。

次に、タイ出身の児童が、自分の生活経験に基づいて、日本と比較しながらタイについて説明した。その後、児童から質問を受けた。児童は、「タイの町と日本の町とでは、ちがうところがありますか」「タイの学校と日本の学校のちがうところはどんなところですか」「タイの国では、どんな遊びがはやっていますか」「日本のおかねは『円』だけど、タイのお金はどういう名前になっていますか」「タイのスポーツを教えてください」「お母さんがきていた洋服の値段はいくらですか。パーティーなどの時は、あの洋服でなくてはいけないんですか」などの質問をした。

その後、ユネスコ・アジア文化センターから借りた『リアムのいる村』というVTR、保護者の方から借りたタイのVTRなどを見たり、ミュージックテープなどを聞いたりした。

さらに、保護者の方が作られた「トムヤンクン」というタイの料理をみんなで味わった。この時、新たに児童から出されていた質問にも答えていただいた。

最後に、これまで学習したことを周囲の人々に知らせるパンフレットづくりを行い、作品の発表会を行った。児童は、パンフレットの内容として、タイの自然、気象、国土の広さや様子、歌や踊りなどの文化、子供の遊びや学校生活、衣服や食事や住まいの様子、通貨、国旗、国技などを取り上げて作成した。



小単元「こだわりワールド」では、児童が興味を持ったことを選択し、調べ、まとめた。児童は、「まるごと〇〇」の勉強を通して興味を持ったこと、日ごろ興味を持っていること、「ガイド」（テーマや調べ方、調べるための資料などが例示されているもの。8テーマを作成した。）から示唆を受けたことなどからテーマを選んだ。そして、ユネスコ・アジア文化センターやユニセフから借りた資料、市販の図書、地域に住んでいる外国人の方、各国の大使館（電話で承諾を取った後手紙を出したり、インターネット上にホームページを開いている国はコンピュータでアクセスした。）などを手がかりに、各自の選んだテーマにそった調査を進めた。

児童が調べて分かったことは、そのつどミニ発表会を開き、他の児童にも知らせた。また、最後に、学級の保護者を招いて、学習発表会を開いた。

本学級の児童が調べた課題は、「ユネスコって知ってる」「世界の名物料理を調べる」「世界の国鳥を調べる」「世界の国旗を調べる」「世界のいろいろな家を調べる」「世界のお金を調べる」「世界のあいさつを調べる」「世界の国技を調べる」「世界の服を調べる」「世界の管楽器を調べる」などである。

小単元「みんな地球人」では、ユニセフの方や外国人のための情報紙を作っている地域のボランティアの方をお招きし、話を聞いた。

ユニセフの方は、「ユニセフの組織と仕事」「世界各地の子どもたちの暮らしの様子」について話された。そして、「世界各地の子どもたちの暮らしの様子」にかかわって、水くみの疑似的体験や経口補水塩の作り方と試飲、及び利用方法、VTR「私を忘れないで」の視聴が行われた。VTR「私を忘れないで」は、平和・人権・環境といった地球規模の問題を、世界各地の子どもたちの暮らしを通して映像化したものである。

ボランティアの方は、「ボランティアを始めるきっかけとなったアメリカでの生活」「情報紙作りの様子」「ボランティア活動の苦労や喜び」「地域に住んでいる外国人との交流活動の様子」について話された。

最後に、これまで学習したことを劇にまとめ上

演した。構成劇「みんな地球人」は、これまで学習した各国の歌や踊り、ユニセフの方が上映されたVTR「私を忘れないで」などを取り入れ、構成した。そして、6年生の保護者、及び教職員の前で上演した。

#### 4. 改造授業の検討

##### (1) 児童の反応

本改造授業を検討するため、授業終了後、質問紙による調査を実施した<sup>16)</sup>。質問は、次の二つである。

1. 総合学習『みんな地球人』の勉強はどうでしたか。また、そう感じたわけをかいてください。
2. 総合学習『みんな地球人』を勉強して、役に立ったことはありますか。また、役に立ったことを教えてください。

すなわち、この二つの設問によって、「児童は改造授業をどのように評価しているのか」「改造授業を通して、児童にどのような変容があったのか」を、主観的側面から把握しようとしたのである<sup>17)</sup>。

まず、「総合学習『みんな地球人』の勉強はどうでしたか」という設問に対して、「おもしろかった」と答えた児童は22人64.7%、「どちらともいえない」と答えた児童は11人32.4%、「つまらなかった」と答えた児童は1人2.9%であった。

「おもしろかった」理由として、「タイという国の食べ物、服装、学校生活などがいっぱい聞けて、そして実際にやってみたりしたからです」「知らなかったことや知らない言葉、あいさつ、国旗、楽器などがわかったからです。ユニセフの人に聞いた話だって、水に砂糖と塩を混ぜて下痢の薬なんていうことを聞けたからです」「最初、ユニセフとはなんだか分からなかったけれど、これをやってよくわかった」というように、「おもしろかった」と答えた児童の64%が、学習内容にかかわる理由をあげている。

また、「ただ調べただけでなく、劇にしてみたり、いろいろな国のおどりや歌をやってみたりして、楽しかったから」「コチャコーンさんのお母さんに民族衣装を見せてもらったり、遊びを教

えてもらったりといろいろな体験できたのが良かったです。最後にまとめて、劇をやったり、合唱をやったり、合奏をやったのがおもしろかったからです」「私は、『ユネスコ』について調べました。調べて画用紙にかくのは大変だったけど、調べたことを親に発表できて良かったです。それを劇などにしたのがよいと思いました」というように、「おもしろかった」と答えた児童の60%が、学習方法にかかわる理由をあげている。

「どちらともいえない」「つまらなかった」と答えた児童の主な理由は、「調べるのはつまらなかったけれど、料理や劇がおもしろかったので『どちらともいえない』です」「話を聞いているとき結構ながいことはなしてくれただけ長すぎて何を言っているのか分からなくなったからです。あと、ほかはおもしろかった」「話はおもしろかったけど、長すぎる」などである。

次に、「総合学習『みんな地球人』を勉強して、役に立ったことはありますか。」という設問に対して、「はい」と答えた児童は30人88.2%、「いいえ」と答えた児童は4人11.8%であった。

「役に立ったこと」として、「劇にも出てきたけど、私たちがいつもいっている学校に行けない子供など、小さいのにお父さんやお母さんもないなんて、多分私たちには考えられないことを知ったことです」「いろいろな国のひとびとの生活の様子が知れてよかった」「まるごとタイのことでは、タイの言葉や食べ物もどういうものがあるか分かったから」というように、「役に立った」と答えた児童の63%が新しい知識の獲得によって国際的視野が広がったことをあげている。

また、「劇とかも見て分かったけど、やっぱり地球のみんなと助け合ったりしたほうが平和だと思いました」「地球には様々な人がいるということを知ることができたし、草加にも外国人の人々がいると知ったので差別をしないようにと思うことができたから」「私たちは親のおかげで学校・塾、いろいろなところにかかわってもらっているのに、違う国では一日中働いて学校にもいけないということ、ユニセフの人達はこうやっていろいろな国の人々を助けているということに、『すごいなあ』と思いました」というように、「役に立っ

た」と答えた児童の23%が、新しい知識の獲得によって、自分の見方や考え方が変化したことをあげている。

さらに、「ボランティアなど貧しい人のために何かやろうと思った」「役に立ったというよりか勉強になりました。よく町でぼ金などをしている人はよく見かけるけど、一度もしたことはありません。でも、ユニセフなどは、貧しい国の人を助けようとしていることに気がきました。だから、私も、今度見かけたらぼ金をしようと思います」「私たちのように、学校にも行けて、家族もみんないて、食べ物もちゃんとあるというあたりまえのことができない子供は、地球上にまだ大勢いるという事実を知り、自分も何かしてあげたいと思うことができたこと」というように、「役に立った」と答えた児童の20%が、新しい知識の獲得によって国際的な視野が広がり、自分の態度や行動を変容させる意欲をもったことをあげている。

## (2) 改造授業の検討

本授業は、総合的な内容構成、人物への焦点化、児童の主体的な関与を促す学習活動の設定といった基本的視点に立って、現行の国際理解学習の改造を試みた。総合的な内容構成としては、世界の様々な文化や生活、地球規模の問題の存在と解決のための努力などを取り上げるとともに、広い視野と態度の形成を促すことを意図した。そして、総合学習として、教育課程上に位置づけた。人物への焦点化としては、それぞれの国で生活する人々（特に同世代の子ども）、国際協力や友好を深めるために活動している人々を登場させた。児童の主体的な関与を促す学習活動の設定としては、インタビューや実体験、調査や発表、構成的活動などを取り入れた。

前述した児童の反応から、本改造授業は、児童に肯定的に評価されていると言える。また、本改造授業を通して、児童は国際的視野を広げ、見方や考え方、態度や行動を変容させたと言えるのである。

前述した本改造授業の基本的視点を、児童の反応を手がかりに検討すると、次のように言える。

第一に、総合的な内容構成は、児童に肯定的に

評価されていると言える。そして、このような内容構成が、児童の国際的視野を広げ、見方や考え方、態度や行動の変容を促していると言えるのである。例えば、「知らなかったことや知らない言葉、あいさつ、国旗、楽器、などがわかったからです。ユニセフの人に聞いた話しだって、水に砂糖と塩を混ぜて下痢の薬なんていうことを聞いたからです」というように、本改造授業の学習内容は、児童にとって多様かつ新鮮なものであったことが分かる。

また、「地球には様々な人がいるということを知ることができたし、草加にも、外国人の人々がいると知ったので差別をしないようにと思うことができたから」「私たちのように、学校にも行けて、家族もみんないて、食べ物もちゃんとあるというあたりまえのことができない子供は、地球上にまだ大勢いるという事実を知り、自分も何かしてあげたいと思うことができたこと」というように、本改造授業の学習内容は、児童にとって感動的なものであったことが分かる。

第二に、人物に焦点をあてた授業構成の手法は、学習内容に親近感を抱かせ、共感的な理解を深めると言える。例えば、「コチャコーンさんのお母さんに民族衣装を見せてもらったり、遊びを教えてもらったりといういろいろな体験できたのが良かったです」というように、児童は本改造授業における人物の登場、及びそれに伴う学習活動を肯定的に評価している。

また、「私たちは親のおかげで学校・塾、いろいろなところにかよわせてもらっているのに、違う国では一日中働いて学校にもいけないということ、ユニセフの人達はこうやっていろいろな国の人々を助けているということに、『すごいなあ』と思いました」「ボランティアなど貧しい人のために何かやろうと思った」というように、児童は本改造授業に登場した人物に親近感を示し、生きるための、あるいは地球規模の問題を解決するための人々の努力に共感し、感情を移入していることが質問紙に対する答えから読み取れるのである。

第三に、児童の主体的な知識の獲得と活用を促す学習活動は、児童の見方や考え方、態度や行動の変容を触発したり強めたりすると言える。例え

ば、「私は、『ユネスコ』について調べました。調べて画用紙にかくのは大変だったけど、調べたことを親に発表できてよかったです。それを劇などにしたのがよいと思いました」というように、児童はこれらの学習活動を肯定的に評価している。

そして、「劇とかも見て分かったけど、やっぱり地球のみんなと助け合ったりしたほうが平和だと思いました」「役に立ったというよりか勉強になりました。よく町でぼ金などをしている人はよく見かけるけど、一度もしたことはありません。でも、ユニセフなどは、貧しい国の人を助けようとしていることに気がつきました。だから、私も、今度見かけたらぼ金をしようと思います」というように、これらの学習活動が児童の見方や考え方を深め、態度や行動の変容を促していることが、質問紙に対する答えから読み取れるのである。

## 5. おわりに

本小論では、仮説的に構成し実践した総合学習「みんな地球人」を手がかりに、小学校における国際理解学習の改造の方途を考察してきた。

本研究は、小学校における国際理解学習の改造の基本的な視点として、総合的な内容構成をはかったこと、人物に焦点化した授業構成の手法を取り入れたこと、主体的な知識の獲得と活用をはかる学習活動を設定して単元を開発したことに意義が認められる。

しかし、当初、本改造授業の第三次「みんな地球人」で予定していたゲームやシュミレーション、フォトランゲージと呼ばれる参加型体験学習が、第二次「こだわりワールド」の調査に時間がかかったため実施できなかった。したがって、今後、改めて本改造授業を実施し検討すること、また本研究で得た知見をもとに引き続き国際理解教育の授業を開発・実践し、検討することが課題である。

### 〔註〕

- 1) 文部省『小学校 学習指導要領』大蔵省印刷局、1989年、p.28.
- 2) 同上書、p.33.
- 3) 中村哲「ますます強まる態度主義的性格の社会科」『教育科学社会科教育 新学習指導要領

- 「社会」を読む』No.323, 明治図書, 1989年 4 月, pp.33-34.
- 4) 小林隆「地球市民的資質形成を意図する『参加型体験学習』の構造と実践的特性」日本社会科教育学会・全国社会科教育学会 茨城大会発表資料, 1996. 9. 29.
- 5) 中村哲『社会科授業実践の規則性に関する研究－授業実践からの教育改革－』清水書院, 1991年, p.32.
- 6) 紙幅の都合で取り上げられなかった先行実践, 及び先行研究の一部は, 次の通りである。
- ・開発教育推進セミナー編『新しい開発教育の進め方』古今書院, 1995年.
  - ・田淵五十生「社会科と国際理解」社会認識教育学会編『社会科教育学ハンドブック』明治図書, 1994年, pp.57-66.
- 7) 大津和子『国際理解教育－地球市民を育てる授業と構想』国土社, 1992年.
- 以下, とくに断らない限りは, ここからの引用である。
- 8) 大津氏は, 「多くの場合, 国際理解教育は, 国際交流・英語教育・帰国子女教育の推進などに矮小化されている」とも指摘している。
- なお, 高等学校における「現代社会」は, 「現代社会における人間と文化」「国際社会と人類の課題」といった国際的視野の形成にかかわる内容も含んだ四つの内容から構成され, 「現代の社会と人間についての総合的な学習」を意図した教科とされている。
- 文部省『高等学校指導要領解説 公民編』実教出版株式会社, 1989年, pp.14-41.
- 9) 小原友行「社会科としての国際理解学習を」『教育科学社会科教育』No.381, 明治図書, 1993年 9 月, p.20.
- 10) 水越敏行・田中博之編著『新しい国際理解教育を創造する－子どもがひらく異文化コミュニケーション－』ミネルヴァ書房, 1995年, p. i.
- 11) 前掲資料 4)
- 12) 同上資料
- 13) 草加市立八幡小学校では, 自ら学ぶ力を育てる教育課程の編成の工夫として, 総合学習を教育課程の一領域に位置づけている。同校におけ

る総合学習とは, 児童が興味や関心を示す主題のもとに, 関連する教科・領域の学習内容を再構成したものである。本改造授業は, 1996年度に, 同校で実践したものである。

なお, 再構成した学習指導要領の内容は, 以下の通りである。

〔国語〕 A表現アイエカキク

〔社会〕 (3) アイ

〔音楽〕 A表現(2)ア(3)イ

B鑑賞(1)アウエ

〔道徳〕 4 (7)(8)

〔体育〕 表現運動(1)(2)

- 14) 改造授業を構想するにあたり, 事前に調査を行った。調査では, 「知っている国」「知っている国に対する印象」を聞いた。
- 15) 総合目標に関連する「関心・意欲・態度」, 「思考・判断」, 「技能・表現」, 「知識・理解」の目標群も設定したが, 紙幅の関係で省略した。また, 「指導計画・評価計画」の詳細も省略した。
- 16) 調査は, 1997年 3 月21日に実施した。調査人数は, 34人である。
- 17) 現行のグローバル教育では, 「内的な側面が軽視されてきた」という指摘がある。そこで, 本改造授業による児童の変容を主観的側面から把握しようとした。
- 木村一子「社会的見方・考え方の自己探究としてのグローバル教育－ワールド・スタディズ (World Studies) の場合－」全国社会科教育学会『社会科研究』43号, 1995年, pp.61-70.